

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 74 号

平成29年9月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次／義捐金贈呈風景	P.1	越喜来中学校義捐金お礼	P.5
総会報告	P.2	関東地区懇親会／「俺の三陸」写真展	P.6
〃	P.3	クラブ助成 (潜水部)	P.7
義捐金寄付お礼	P.4	お知らせ	P.8



F F 14期・三水会及川善裕委員
横浜公益会・中島幸平会長
F F 14期・三水会西尾徹副会長
越喜来小学校・村上修校長
越喜来中学校・西村文利校長
(左より)



新築移転した越喜来小学校
大船渡警察署三陸駐在所裏手の高台へ
平成29年8月9日撮影



「平成29年度 三水会定期総会報告」

平成29年5月20日(土)午後5時より北里大学白金キャンパス薬学部一号館1402教室において、平成29年度三水会定期総会が開催されました。

代議員総数50名に対し、出席数49名(本人出席35名、委任状提出者14名)欠席1名となりました。

冒頭、議長団の選出では議長に水産食品学科3期・藤森年三氏、続いて議事録署名人には水産増殖学科9期・朝日田卓氏、水産増殖学科9期・小原初恵氏を選出しました。

その後議事に入り執行部より、平成28年度事業報告及び収支決算報告が行われ、続いて監査報告が行われました。そして原案通り承認されました。

引き続き平成29年度事業計画及び予算案の説明があり、原案通り承認されました。

総会終了後、同教室にて来賓としてお迎えしました学校法人北里研究所常任理事の緒方武比古先生より法人役員の立場から、大学・法人の近況と課題についてご説明いただきました。続いて菅野信弘海洋生命科学部長より写真を交えて、学部の近況等のお話がありま

した。その後、来賓の先生方も加わり「レストラン白金」にて懇親会を開催しました。冒頭、昨年4月に発生した熊本地震で被災した、食品学科18期の小野要代議員より復旧状況説明と、お見舞いお礼が述べられました。そして互いの交友を深めました。

『平成28年度事業報告』

1. 会報の発行

同窓生の動向、海洋生命科学部の現状、および各種情報を含む会報を平成28年9月と平成29年3月に2回発行した。

2. 三水会ホームページの運営管理

会員に対し本会の各種情報を提供した。

3. 会員の現状の把握

全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努めた。

4. 親睦会の開催

関西地区の会員を主な対象とした親睦会を平成28年9月に神戸市にて開催した。

5. 同期会等の助成

研究室同窓会およびクラブOB会等、卒業生による集会費用の一部助成した。

6. 学部・学生との懇談会の開催

学部教員および在学生との懇談会を開催した。

財 産 目 録

平成29年3月31日現在

*一般会計(円)

預金等			
みずほ銀行	三ツ境支店	普 1159267	301,017
山梨中央銀行	小沼支店	普 214393	4,288,572
みずほインベスターズ証券	新宿支店	MMF	606,788
現 金		6,435	
合 計		5,202,812	

*特別会計(円)

(1) 事業積立金

みずほインベスターズ証券	新宿支店	MMF	1,000,000
--------------	------	-----	-----------

(2) 大学助成金

ゆうちょ銀行	〇八八 088	普 15963761	150,141
--------	---------	------------	---------

※一般会計「準会員活動助成」の対象とならない北里大学や準会員以外の団体等に対する助成を目的とする積立金

監 査 報 告

三水会規約に基づき、提出された収支決算書の各事項について監査を行った結果、その内容は適当なものと認めます。

平成29年5月20日

監事 伴 圭司
監事 大野 良樹

平成28年度収支決算書

平成29年3月31日現在

支出の部			収入の部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1. 事業費	3,700,000	2,988,902	1. 部会助成金	4,537,000	4,537,000
(1) 会報の発行費	2,300,000	2,165,922	2. 会報郵送料補助	724,000	724,000
(2) 三水会HPの運営費	200,000	120,000	3. 前年度繰越金	4,728,002	4,728,002
(3) 親睦会の開催費	400,000	200,000	4. 預金利息	3,000	145
(4) 同期会等助成費	200,000	45,000	5. 雑収入	10,000	10,000
(5) 大学・学生との懇談会費	100,000	24,200			
(6) 準会員活動助成金	200,000	150,000			
(7) 就職ガイダンスの開催費	250,000	233,780			
(8) 漁船海難遭児育英会寄付	50,000	50,000			
2. 運営・管理費	2,370,000	1,807,433			
(1) 印刷・通信費	420,000	261,554			
(2) 会議費	700,000	532,351			
(3) 総会費	300,000	251,430			
(4) 事務局費	900,000	762,098			
(5) 慶弔費	50,000	0			
3. 予備費	3,932,002				
4. 次年度繰越金		5,202,812			
合 計	10,002,002	9,999,147	合 計	10,002,002	9,999,147

平成29年度予算

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1. 事業費	3,750,000	1. 部会助成金	4,656,000
(1) 会報の発行費	2,350,000	2. 会報郵送料補助	742,000
(2) 三水会HPの運営費	200,000	3. 前年度繰越金	5,202,812
(3) 親睦会開催費	400,000	4. 預金利息	3,000
(4) 同期会等助成費	200,000	5. 雑収入	10,000
(5) 懇談会費	100,000		
(6) 準会員活動助成金	200,000		
(7) 就職ガイダンスの開催費	250,000		
(8) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
2. 運営・管理費	2,370,000		
(1) 印刷・通信費	420,000		
(2) 会議費	700,000		
(3) 総会費	300,000		
(4) 事務局費	900,000		
(5) 慶弔費	50,000		
3. 予備費	4,493,812		
合計	10,613,812	合計	10,613,812

7. 準会員活動助成
クラブの活動経費、準会員活動経費の一部を助成した。

8. 就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生を講師に招いた就職ガイダンスを海洋生命科学部在學生を対象に、相模原キャンパスにて開催した。今年度は、初の試みとして、ガイダンス終了後、軽食を取りながら講師と参加学生との交流会を行った。

9. 漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を

行った。

10. 東日本大震災に係る支援活動や義援金活動の実施
平成23年3月11日に発生した東日本大震災で大船渡市三陸町にも甚大なる被害が発生したことに伴い、被災された三陸町の方々に支援するため、昨年度より引き続き募金活動を平成29年3月31日まで行った。

『平成29年度事業計画』

1. 会報の発行
同窓生の動向、海洋生命科学部の現状、および各種情報を含む会

報を平成29年9月と平成30年3月の二回発行する。

2. 三水会ホームページの運営管理
会員に対し本会の各種情報を提供する。

3. 会員の現状の把握
全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努める。

4. 親睦会の開催
各地区の会員を対象とした親睦会を開催する。

今年度は平成29年7月に関東地区親睦会、平成30年2月に北海道地区親睦会を開催予定。

5. 同期会等の助成
研究室同窓会やクラブOB会等、卒業生の集会費用の一部を助成する。

6. 懇談会の開催
学部教員および在學生等との懇談会を開催し意見交換を行う。

7. 準会員活動助成
クラブの活動経費、準会員活動経費の一部を助成する。

8. 就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生を講師に迎え、就職ガイダンスを海洋生命科学部在學生を対象に行う。

9. 漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行う。



義援金御礼(第二)のふるまひ、三陸への気持ち

三水会会長 高橋 明義

まぼろしの三水会創設30周年記念行事と災害支援

平成23年3月11日の大地震、それに続く大津波による甚大な被害は、三水会会員の皆様の記憶から消えることはないでしょう。その日その場に居合わせ、難を免れた学生の心中は如何ばかりだったでしょうか。新聞、ラジオ、テレビ、SNSなどで、現場からはるか遠くに離れていても逐次伝わってくる三陸の、想像をはるかに超えた惨状に、卒業生の皆様は心を痛められたことでしょう(写真1)。

平成23年3月12日(土)には、三水会創設30周年記念『講演会および懇親会』を葛西臨海水族園に



三陸駅からの被災した越喜来小学校。海に近いことが分かる。水石博彦(10期生)、平成23年3月30日撮影

隣接する、ホテルシーサイド江戸川で開催することにしておりました。二つの講演とその後の交流を予定したその行事には、会場が溢れるほどの申し込みを受けていたのですが、前日の大震災による中止はやむを得ないことでした。会場のキャンセル料は先方のご厚意により発生しませんでした。非常時の做いであり、当たり前のことなのかもしれませんが、災害発生時に三水会が受けた支援ともいえません。三陸へなんらかの形で支援をしたい気持ちは、震災直後から会員の皆様の中に大なり小なり芽生えていたのではないのでしょうか。

東日本大震災発生から間もなく、三水会では三陸の復興にお手伝いするために、義援金を募りました。それから6年が経過した平成29年3月末日をもちまして、義援金の募集は一旦停止させて頂きました。この間、1千3百万円を超える貴重かつ多大なご芳志が全国で活躍中の会員から寄せられました。これらはすべて、「三陸港祭り実行委員会」「越喜来漁業協同組合」「地縁団体崎浜公益会」「越喜来小学校」「越喜来中学校」に寄付させて頂きました。復興、ならびにこれからの社会を担う児童・生徒の育成のお役に立てばと思う次第でございます。会員の皆

様の三陸を思う気持ちには痛み入りました。改めて篤くお礼を申し上げます。

記憶より記録

3月11日は海洋生命科学部学位記授与式の翌々日でした。この文章を書きつつも、大震災にまつわる様々な記憶が蘇ってきます。記憶は時の流れとともに曖昧になっていくでしょう。しかし、実は色褪せることのない記録が残されているのです。突然襲ってきた地震と津波による被災直後から3月30日までの三陸キャンパスでの教職員等の対応の様子、学部が相模原に移動してからの学生の引越越し、教育・研究、学生生活・就職指導、広報・社会教育、管理運営などの貴重な記録が、「北里大学農医連携学術叢書第10号 東日本大震災の記録―破壊・絆・甦生―」陽捷之・緒方武比古・古矢鉄矢編著(養賢堂)として出版されています。その中で、緒方武比古・海洋生命科学部長(現・学校法人北里研究所・理事長代理)が担当された「第3章 東日本大震災の記録」の「海洋生命科学部の東日本大震災対応」と題する一節で被災直後の様子をたどることができ

ます。

三水会による三陸支援は、ある

いはこの場合「救援」がより相應しい表現かもしれませんが、食料などの救援物資を満載して、相模原を発つて白金を経由し、三陸へ向かうトラックに同乗した、内藤文隆副会長の道案内かもしれません。白金を出たのが何日なのか、記憶では曖昧なのですが、「3月13日 夕方・本部より支援物資到着(内藤君) 食料、飲料、衣類、ガソリン、発電機?」と記されています。この記録により、トラックは大震災の翌日の夜、三陸に向かったことが分かります。

記録には「ガソリン」の文字が頻繁に出てくることから、自動車の運転や発電において、極めて貴重な物資であったことが窺われます。3月15日の10:00には「・同窓会、本部とガソリン調達のやり取り」と書かれています。その頃、長屋信博・初代三水会会長(現・全国漁業協同組合代表専務理事)が中心となって手配したガソリンを満載したタンクローリーが、三陸へ向かっていたので、同日午後には三陸町に到着したことが、「ガソリン確保」との記述によって確認できます。

これからの三陸へ
義援金のみならず、三水会会員の皆様が震災発生直後から現在に

いたるまで、有形無形のさまざまな支援活動を続けてきていることは、報道などでも仄聞するところでございます。人知れず地道な活動を行っている会員もいらつしやることでしょうか。三陸は変貌を遂げつつあります。小学校は越喜来駐在所の裏山を切り拓いた高台に新築移転されました(写真2)。校歌の一節「海と山とを友として」は、時として厳しすぎる、三陸の豊かな自然の中のびのび育つ児童のたくましさを感じさせます。三水会は、第二のふるさとのために、これからも三陸を向いて参りますので、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。



東日本大震災にかかわるご支援についての御礼

大船渡市立越喜来中学校

校長 西村 文利



天気の良い日は、陽光に越喜来湾が白く輝き、本格的な夏の訪れ

季節となりました。北里大学海洋生命科学部三水会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度の越喜来中学校の生徒数は47名。入学生徒はわずか13名でした。かつては、各学年共に3学級であったことを知る者は、越喜来の人口減少と高齢化現象を突きつけられた思いが致します。

去る、7月2日には、通信陸上県大会が北上市で開催されました。本校では、わずか3名が地区大会を勝ち上がり出場しました。女子共通走り高跳びに出場した3年生が、1メートル48センチを飛び、4位に入賞することができました。4位までが東北大会出場権を得られるのですが、見事にその出場権を得ることができました。月曜日の全校朝会においては、全校生徒や教職員の祝福を受け、活

躍に校内が大いに沸いています。

この度は、多額の義援金を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

頂戴しました義援金は、子ども達の教育環境整備並びに教育活動の支援に使わせて頂きます。また、陸上競技の東北大会は青森市で行われるため、遠征費等などにも充てる他、各種大会の必要経費として使わせて頂きます。ほんとうにありがとうございます。さらには、西尾徹副会長様、同窓会の及川善裕様には遠路足をお運び頂き、震災前の越喜来小・中学校の事や北里大学の学生さんが沢山の事や北里大学の話を懐かしく交わすことができたことを感謝申し上げます。

あの日から既に6年が経過致しました。三陸駅から公民館、そして、越喜来中学校までの県道は、何度も迂回させながらも少しずつ完成に近づいています。以前は、公民館を横に見ながら車を走らせていましたが、新しい道路は公民館を見下ろしながら走ります。崎浜方面から来ると一時停止があり浦嶺、浦浜の道になります。崎浜出身の私としては、いささか不便を要する事になりますが、三陸鉄道と並行する道が優先になるのはやむを得ない事と諦めています。

す。越喜来小学校も完成し、新しい校舎から中学校に通う生徒達ですが、管内で一番新しい校舎から一番古い本校(昭和33年完成)に通うのは、何よりも中1ギャップを感じるのはないかと心配していましたが、子ども達の対応能力には驚いています。とても元気に日々の学習に励んでいます。

私たち大人でも震災時の映像を観ることで、あの時が蘇ります。学校現場においては、やはり、心のケアが最大の課題と捉えています。幸いにもスクールカウンセラーの配置や復興加配ということから教職員も定数よりも2名多く頂いていることなど手厚い指導も出ています。こういう中で、昨年度、父親を震災で亡くした生徒が「命を守る人になる」と題した作文を出品し、「岩手県教育委員会教育長賞」に輝くことができました。私が何よりも嬉しかったのは、この作文の中で父親の思い出を綴ることができたこと、最も辛く悲しかった遺体と対面したことまで表現できたことです。時間はかかりましたが、子ども達の心も前向きになりつつあります。

こうした心の復興には、もちろん地域の方々の力が大きいです。過日の運動会においては雨天のために4日間も延期しましたが、校

庭に巻く砂やおがくずをトラックで準備していただいたり、運動会当日の早朝、大型のローラーで整地しての運動会の実施ができました。運動会では、「大漁唄い込み」を全校生徒で唄い踊ります。文化祭では、崎浜の念佛剣舞、浦浜の念仏剣舞、甫嶺の獅子舞を披露します。その指導と当日の準備には、生徒数を上回る地域や保護者の方々も来校します。地域の方々もまたこの郷土芸能を通し子ども達の元気な姿を見ることを楽しみにしています。

震災以降、復興教育が県内の小中学校において義務づけられています。越喜来の子ども達は、実際に復興に携わる人々を見ながら、人と人との「かわり」や「命」の大切さを感じる心が出来ています。それは、「感謝」する心が育っているからと感じています。支援頂く方々には、「感謝」と同時に目標を持ち続け、夢を抱き続けることのすばらしさを学んでいます。越喜来の



子ども達が、力強く、たくましく、また、いつまでも心優しく育つてゆく姿をどうぞ見守って欲しいと思います

す。

終わりにりましたが、北里大学海洋生命科学部三水会の皆様のおすすすめのご発展とご活躍をお祈り申し上げますとともに、北里大学三陸キャンパスの再開が図られますこと、そして、子ども達の健康やかな成長のため今後ともお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。書面にて御礼の挨拶とさせていただきます。

三水会関東地区親睦会に参加して

水産学部水産食品学科28期
安孫子 信吾

平成29年7月8日(土)千葉県木更津市牛込海岸において、平成29年度三水会関東地区親睦会として木更津市牛込海岸において潮干狩りと昼食会が開催されました。当日は晴天に恵まれ、総勢75名もの三水会員とご家族の方々に参加頂きました。

我が家は夫婦と子供たちと計5人で参加させて頂きました。午前9時半の受



付後、昼食・正午までの2時間半、最初は日差しの強さと子供もいることから、1時間程度で切り上げて、親睦会・昼食会の会場として借り切っていた海の家でくつろぐと思っております。

しかし、潮干狩り場である浅瀬に出てみると、海風が思いのほか心地よく、サンダル履きの足に時折海水がかかることもあって以外に涼しく感じられ、また、初めての潮干狩りでしたが、熊手で潮の引いた砂浜を掘ってみると、大粒のアサリと、時にはハマグリも獲れることに夢中となり、更に子供たちは子供たちでアサリだけだけでなく、ヤドカリや小さなカニを見付けることにも没頭し、気が付くと午前11時半を回っており、大人一人2kgまでの持ち帰りを十分に満たす量のアサリが獲れたのでした。

その後の昼食会は、高橋三水会会長の挨拶に始まり、三水会で事前配の幕の内弁当を家族毎に満喫後、折々で会員同士の近況報告や昔話の花が咲いておりました。

西尾副会長の中締めの挨拶の後には、三三五の解散となりましたが、皆様笑顔で帰っていかれた大変楽しまれた様子でした。

本親睦会を担当された三水会事務局、三水会役員の諸先輩方におかれましては、事前準備、当日も

朝早くからと事後の片付けと大変お疲れ様でした。

最後になりますが、本親睦会にご賛同頂き、ご参加下さった会員の皆様に対して、この場を借りて厚くお礼申し上げ、今回の親睦会の報告に代えさせていただきます。ありがとうございます。



写真展「俺の三陸」の開催を終えて

? 学科? 期 岡野 伸行

2017年3月10～12日の3日間。東京・神田のギャラリ「エックスサム神田」にて開催した写真展「俺の三陸」について三水会の皆様へのご報告。

〈開催のきっかけ〉

震災以降、旧三陸町の海で「海底清掃」を主にボランティア活動を行ってきた北里大学水産学部(現・海洋生命科学部)卒業生有

志の団体「リトル越喜来」での集まりでの事。震災から5年が経過し海底清掃のボランティアも一つの節目を迎えた頃。何気なく「学生時代に撮った写真って貴重だよな」と言った趣旨の話になり「それを集めて写真展ができれば最高だね。」と盛り上がった。その折、海底清掃の発起人でもある山本浩司君が開口一番「やりましょうよ！」と。そこからミーティングを繰り返して、写真の募集を開始するに至った。あの震災を受け、多くの卒業生が望郷の心を揺さぶられ、実に1000点を超える写真が集まった。

〈企画意図とタイトルに込めた思い〉

およそ7000人も、学生が三陸に青春を捧げた。その学生時代に数々の写真が撮られたが、その被写体の殆どは学生の姿。だけどその背後に映る船、街並み、家、人、干された網等が今となっては地元の人にとってかけがえのないものではないか。そんな思いが企画・実行を後押しした。一枚一枚は本当に何気ない三陸での生活の一瞬を切り取ったもの。写真を選ぶ際、一人一人が三陸の事を思い出す「その時間」を大切にしたい。楽しんで欲しい。

写真展のタイトルは「俺の三陸」。

〇・G諸氏には申し訳ない想いもあるが、北里大学水産学部(あえて旧学部名)の歴史において、男所帯であった時代が長く「俺」を主語にさせた貰った。1枚1枚の写真の被写体の多くは「俺」。俺の集まりだから俺たちの三陸くなのかもしれない。だけど彼の地で輝いた無数の「俺」の青春を大切にしたいかった。

〈開催期間中の様子〉

開催初日となる3月10日。スタッフは8時半に設営開始。どことなく港町を感じられる飾り付けにし、写真は年代別展示をベースに、「崎浜」「浦浜」等のカテゴリーに分けての展示コーナーも作った。

一通りの設営を終え開館となる14時までの間、会場内をスタッフみんなで見て回った。そしていざ開館。初日は平日であったにも関わらず予想外の人出。開催2日目の3月11日14時46分には三陸の方向に向かって、会場内にいた全ての人で黙祷を捧げた。

開催期間中はスタッフの予想を上回る300名を超える方が訪れた。会場内のそこかしこで「久しぶり」とか「元気？」など旧友を温め合う姿も見られ、プチ同窓会の様になっていた事はスタッフの目論見通り。しかし多くの三

陸出身の方にも訪れて頂いた事は予想外。学生との関わりや思い出話をたくさん聞かせて頂き、写真を眺める際には涙を流される方も見られ、「写真を提出してくれた元学生の皆様に感謝します」と言われた事を、この場をお借りしてお伝えいたします。



平成29年度三水会準会員活動助成

海洋生命科学部北里会
潜水部主将 3年 林田 峻平

この度は、三水会準会員活動助成金を交付していただき、誠にありがとうございます。海洋生命科学部北里会潜水部の活動を評価していただけたことを、大変光栄に思っています。部員一同を代表いたします。心より御礼申し上げます。

私たちは現在、46期となる1年

生が入部し、男子55名 女子26名の総勢81名で活動しています。震災後、相模原へ移転してから、伊豆半島を中心に活動を展開し、様々な海に潜っています。ただ潜って楽しかったで終わらず、ダイビングスキルの反省点を話し合ったり、実際に見た生物を調べたりするなど、部員一人ひとりが自立したダイバーになれることを目指しています。

また、「かつて海洋生命科学部があった三陸を一度は潜るべき」と思い、現在の三陸臨海教育研究センターを利用して毎年夏休みに三陸合宿を行い、普段潜る海と違った環境、生態系を楽しみながらダイビングを行っています。

また、海岸の清掃活動や小学校のプール講習、関東学生潜水連盟のフリッパー大会に参加するなど、外部の活動にも力を注いでいます。中でもフリンパーをつけてのタイムを競うフリッパー大会では、昨年2位に入賞するなど結果を残すことが出来ました。三陸から相模原へ活動を移したからこそ出来ることがあるので、これからも積極的に活動をしていきたいと思えます。

ここまで活動を続けていられるのは、相模原へ移ってから部の基盤を築いてくださった先輩方、ご



指導してくださった朝日田先生、それを支え応援してくださいましたOB・OGの皆様のお力添えがあったからこそだと思えます。改めて、心から感謝申し上げます。

昨年の秋にはOB・OG会のバーベキューを開催しました。ここでは世代を超えた繋がりが深まり、より一層これからの活動を充実させていこうという気持ちが強くなりました。設立当時から意志や伝統を受け継ぎつつ、現在の潜水部の活動を更に開拓し、一歩ずつ前進していきたいと思っております。まだまだ未熟な点多々あるかと思いますが、これからも安全潜水を第一として活動に励んで参りますので、皆様のご支援、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

「 掲 示 板 」

■ 2017年北里祭

相模原キャンパスにて11月4日（土）、5日（日）開催されます。

■ 平成29年度三水会関西地区親睦会案内

開催日時：11月11日（土）18：30～

開催場所：J R大阪駅 ルクアイーレ10 F「GOOD PROVISION」

会費：4,000円

内容：学校法人北里研究所常任理事：緒方武比古先生・海洋生命学部より講師そしてこの春、退官なさった加戸隆介先生をお迎えしての懇親会。

*後日、関西地区在住の会員の皆様には案内葉書を送付します。

■ 大村智先生 講演会のご案内

北里大学同窓会創立50周年記念事業の一環として、2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞された北里大学特別栄誉教授大村智先生の講演会を、下記により開催いたします。

なお、応募方法は北里大学同窓会会報（平成29年9月発行）とホームページでご案内します。

日時：平成29年11月23日（木）[祝日・勤労感謝の日]

15時10分～16時30分

場所：北里大学白金キャンパス 薬学部コンベンションホール

講演者：北里大学特別栄誉教授 大村 智 先生

演題：「私の歩んできた道」※中高生にもわかりやすい内容になっております。

応募方法：応募方法は北里大学同窓会会報（平成29年9月発行）とこちらのホームページでご連絡致します。

応募対象者：北里大学同窓会会員と同伴者1名までとします。

定員：200名

定員に達した時点で締切りとさせていただきますので、ご了承下さい。

■ 三水会北海道地区親睦会案内

日時：平成30年2月17日（土）17時から

場所：ネストホテル札幌駅前（旧チサンホテル・前回と同じホテルです）

札幌市中央区北2条西2丁目9（TEL：011-222-6611）

会費：5,000円

内容：北里大学名誉教授加戸隆介先生講演会・懇親会・ビンゴゲーム大会

申込問合せ：E-mail：information@kitasato-sansuikai.jp TEL：0120-873-135

*案内状は北海道内在住の卒業生に年内に発送しますが、案内状が届かない方、また、道外から参加をご希望する方は、事務局までご連絡ください。

編集後記

九州北部豪雨の被害をはじめ今年も各地で異常気象による災害が発生しています。被害に遭われた方々には、この場を借りてお見舞い申し上げます。地震や異常気象などこの数年天災による災害が多くみられます。会員の皆様も身の回りの災害には十分注意していただきたいと思えます。

今年は久々に関東地区親睦会を開催いたしました。久方ぶりの開催にもかかわらず60名を超える皆様にご参集いただき、楽しいひと時を過ごすことができました。今後も3年に1度くらいのペースで開催する予定しております。ぜひ、多くの会員の方々にご参加いただき、旧交を温めたり、世代を超えての新たな出会いの場となればと思えます。